

たはら 歴史探訪 クラブ 其の67

TAHARA
History Inquiry
Club

潮騒の伊良湖岬

季節はもう秋ですね。秋の伊良湖岬といえば、渡りをする鳥たちを観察する人たちにぎわいます。

この季節、伊良湖ビューホテルのある山（骨山）から伊良湖岬の先端にある古山にかけて、多くの渡り鳥の姿を見ることが出来ます。中でも「鷹の渡り」は有名です。一口に鷹といっても色々な種類があります。サシバという種類の鷹はその代表ともいえます。他にハチクマ・ノスリ・ツミ・オオタカなどといった鷹が9月の下旬から10月の下旬にか

けて、伊良湖岬の上空をはるか南の島々を目指して飛んでいきます。その姿は、野鳥ファンをはじめとする多くの人々を魅了します。また、ヒヨドリやツバメ・メジロなどの小鳥は、群れをなして渡っていきます。なお、鷹をはじめとした多くの渡り鳥が伊良湖岬上空を通過することが分かったのは、昭和47年10月のことです。以来、この岬は渡り鳥の重要な中継地として注目を浴びるようになり、さらには、岬周辺に残された原生林が渡り鳥たちの大切な休憩地となっていることも分かりました。

伊良湖岬と鷹との関係は古く、かの西行法師が奥州平泉への旅の途中、伊勢から伊良湖へ渡った際に、次のような句を詠んでいます。「巢鷹渡る 伊良湖が崎を疑ひて なお木に帰る山帰りがな」という鷹を題材にしたものです。また、江戸時代



伊良湖岬の上空を舞う鷹

に伊良湖を訪れた松尾芭蕉も「鷹一つ 見つけてうれし 伊良湖崎」と詠んでいます。こちらは、江戸時代にこの句を刻んで建てられた句碑が、現在「芭蕉園地」として整備されたところに残されています。話は少しそれますが

が、芭蕉がこの地を訪れたのは12月で、実際の鷹の渡りを見られる季節ではありませんでした。そこで、本当に芭蕉は鷹を見たのか、その時に芭蕉が見たのはこの地で越冬中の猛禽類（ハヤブサ）ではないか、とか、「芭蕉の愛弟子・保美の里で隠棲中の杜国に鷹をなぞらえたのではないか」など、さまざまながいわれています。いずれにしても、古くから歌の題材にされるほど伊良湖と鷹は有名であったということです。

秋の渡りの最盛期は9月下旬から11月中・下旬です。サシバは約1万羽が伊良湖岬を通過し、その後、紀伊半島 四国 九州（大分） 鹿

伊良湖岬で見られる渡り鳥

名前	渡りのピーク	行き先
サシバ	10月上旬	東南アジア
ハチクマ	10月上旬	東南アジア
ツミ	10月～11月	西南日本・東南アジア
ノスリ	10月中旬～11月上旬	西南日本・中国南部
ヒヨドリ	10月～11月	西南日本
ツバメ	8月～11月	東南アジア
メジロ	10月～11月	西南日本
カワラヒワ	10月～11月	西南日本
ハクセキレイ	10月～11月	西南日本
アマツバメ	10月上旬	西南日本・東南アジア

上記以外で見られる渡り鳥

【タカの仲間】
ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウなど
【小鳥】
アカゲラ、コシアカツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ノビタキ、エゾビタキ、コサメビタキ、シジュウカラ、ヤマガラ、マヒワ、カケスなど

児島県佐多岬 沖繩本島 伊良湖島を経て台湾・フィリピン・東南アジア方面へ向かいます。条件がそろえば一日に数千羽のサシバが伊良湖を通過することもあり、運が良ければ鷹柱と呼ばれる光景を目の当たりにできるかもしれません。

澄み切った秋空の下、伊良湖岬周辺でバードウォッチングを楽しんでみてはいかがでしょうか。（天野）

田原市博物館 22局1720

参考文献：「渥美半島 郷土理解のための32章（改訂版）」愛知県立福江高等学校 平成18年3月